みどりのこえ

春号 2012

No.44

長野県環境保全研究所　平成24年（2012年）３月19日発行

●飯綱庁舎　〒 381-0075 長野市北郷 2054-120　TEL.026-239-1031　FAX.026-239-2929
●安茂里庁舎　〒 380-0944 長野市安茂里米村 1978　TEL.026-227-0354　FAX.026-224-3415
URL: http://www.pref.nagano.lg.jp/xseikan/khozen/　E-mail: kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp

津波で形を変えた陸前高田の松林と干潟。海側（左）にあった松林が倒され、地形も変わってしまった。

東日本大震災からの復興と生物多様性

文・写真　中静　透

2010年は生物多様性条約の第10回締約国会議が名古屋市で開催され、名古屋議定書や愛知目標が合意されるなど、生物多様性が大きく注目された年であったが、翌2011年は3月11日に東日本大震災が起こって、仙台に住む私たちも、その被害の大きさに非常に大きなショックを受けた。「生物多様性どころではない」という感覚が私たちの間にも広まったが、復興にあたって何をするべきかという議論の中で浮かび上がってきたのは、今回の被災地が、海や沿岸の生態系がもたらす恵みに大きく依存した生活、産業、文化を持つということであった。そうした目で見ると、今回の震災で最も大きな被害を受けた生態系は、干潟や藻場、海草場などの沿岸域の生態系であり、水質の浄化作用を持っていたり、漁業資源のゆりかごであったりという、生態系サービスから考えても重要な場であったことに気づく。一方で、これらは生物多様性の損失が最も懸念される生態系に含まれる。

三陸海岸は小さな河川が多く、海のすぐ近くで流域が完結する。したがって、海と山や森との関係も見えやすい。逆に言えば、流域の大規模な開発の影響は、すぐに海に出る。こうした視点に立つと、沿岸域の生態系や生物多様性に配慮した復興は、この地域にとっても重要な意味をもつはずである。速く復興してほしいというのは皆の共通した願いであるが、こうした生態系やその恵みまで損なってしまっては、地域の産業や生活・文化を衰退させることになるのではないか、と懸念する。

また、原子力発電所の事故、東北地方全体での停電、仙台での1か月以上にもおよぶ都市ガス供給の停止、被災地への救援物資の遅れなどを見ると、大量のモノやエネルギーを一か所で集中的に、「効率よく」作ることのリスクも感じた。これまでの私たちの生活は、いかに大きなリスクを見逃していたのかを改めて体験したと思っている。つまり、この震災は、私たちの生活のあり方や、生態系サービスの重要さを改めて考えさせるものだと思うのだ。あまり大きな議論にはなっていないかもしれないが、復興には、こうした考え方が生かされるべきだと強く思っている。

(なかしずか　とおる／東北大学教授)

Contents

【巻頭言】東日本大震災からの復興と生物多様性 …… 1
【特集】公開セミナー「ここまでわかった信州の自然」から
公開セミナー「ここまでわかった信州の自然」から …… 2
地球温暖化と信州の高山植物 …… 3
伊那谷における蝶類の動向 …… 4
地球温暖化とライチョウ …… 5
ザゼンソウ属植物の分類・地理 …… 6
浅間山麓の草原と希少生物 ～歴史と現状～ …… 7
【「生物多様性ながの県戦略」が策定されました】…… 8-9
【市民参加型温暖化影響モニタリングの Web サイトを開設しました】… 10
【自然ふれあい講座実施報告】…… 11
【ご案内】平成 24 年度自然ふれあい講座のご案内 …… 12